

Sun Java™ System Calendar Server

スケジュール管理やリソース管理のための強健なソリューション



Key feature highlights

カレンダー機能、グループ・スケジューリング、イベント情報の共有、業務管理、イベントや業務の検索やEメールの送付など多彩な機能を搭載

各々の地域のタイムゾーンにより、Eメールやインスタント・メッセージでイベントや業務の期限を告知するリマインダ機能

日次、週次、月次等のカレンダー表示切り替え、そして業務やイベント毎のカレンダー表示

Web経由でのアクセスや、Sun Java System Connector経由でMicrosoft OutlookやEvolution等デスクトップ・クライアントなど、多くのカレンダー・クライアントへ接続可能

Sun Java System Portal Server Mobile Access (旧Sun ONE Portal Server Mobile Access) やその他のモバイル・ソリューション経由でのモバイル・アクセス

Sun Java System Identity Server(旧Sun ONE Identity Server)との統合により、ユーザ属性情報の管理とシングル・サインオンを実現

SSL/TSLのサポートにより強化されたセキュリティ、バーチャル・ドメインと、分散カレンダー・サーバのサポートで、柔軟性を実現

ブランディング、カスタマイズ、そして連続運用性に優れた、オープンで拡張性に富んだプラットフォーム

目まぐるしく変化していく今日の社会では、スケジュールや組織リソースを管理し、有効利用するための強力なツールが必要です。Sun Java System Calendar Server(旧Sun ONE Calendar Server)は、カレンダー機能 / グループ・スケジューリング / イベント情報の共有 / 業務管理 / Eメールによる伝達 / Eメールやインスタント・メッセージによるリマインダ / 多くのカレンダー・クライアントのサポートなど、個人やグループでのコラボレーション活動を支援するためのツールを提供します。ユーザは各々が持つカレンダーへWebベースのインタフェースや、専用のSun Java System Connectorを利用したMicrosoft Outlookからのアクセスなど、複数のクライアントからシームレスにアクセスが可能です。もちろん、専用のSun Java System Connectorを利用することで、Outlookのルック・アンド・フィールを踏襲したオープンソースのEvolutionからのアクセスも可能です。柔軟に実装可能なアーキテクチャ、他のSun Java Enterprise System製品との親和性、そして複数のクライアントのサポートなど、Sun Java System Calendar Serverはサービス・プロバイダーや企業が求めている機能を余すことなく提供します。エンドユーザが望んでいる使いやすさと質の高いサービスを提供し、同時にIT管理者や開発者が高く評価するオープンで拡張性を備えたプラットフォームをTCOの軽減と共に実現するのがSun Java System Calendar Serverです。

コミュニケーション / コラボレーション・サービス
Sun Java System Calendar Serverは、業界をリードするSun Java System Messaging Server(旧Sun ONE Messaging Server)、Sun Java System Instant Messaging(旧Sun ONE Instant Messaging)そしてSun Java System Synchronizationツール(旧Sun ONE Synchronizationツール)、Microsoft Outlook向けSun Java System ConnectorとEvolution向けSun Java System Connectorを含んだ、Sun Java Enterprise Systemのコミュニケーション・ソフトウェア群における核となるコンポーネントです。統合されたSun Java Enterprise Systemのコミュニケーション・ソフトウェアがEメールによるイベントの告知や、Eメールやインスタント・メッセージによるイベントや業務期日のリマインダ機能を提供します。これらの統合可能な製品群が、慌しく複雑に入り組んだ現状のコミュニケーション&コラボレーション・システムをシンプルに解決します。

Sun Java System Identity Server(旧Sun ONE Identity Server)により、Sun Java System Calendar

Serverはシングル・サインオンやSun Java Enterprise Systemのソフトウェア全体を通じたユーザ属性情報の一元管理を実現します。統合可能なSun Java System Portal Server(旧Sun ONE Portal Server)の標準規約に対応したポートレットが、カレンダー情報をお客様のビジネス環境に最も適した形で提供可能で、VPN(Virtual Private Network)を介し、必要に応じて遠隔地からのセキュアなアクセスや、さまざまなデバイスからのモバイル・アクセスも実現しています。

Sun Java Enterprise Systemのコミュニケーション・ソフトウェア群は、Sun Java System Portal Server、そしてSun Java System Identity Serverとの相互運用により、企業 / 教育関係機関 / 政府公共機関 / サービス・プロバイダーのための、セキュアで堅牢な、そして多彩な機能を備えたコミュニケーション&コラボレーション環境を構築します。この統合環境の実現により多くの評価をいただいたSun Java System Calendar Serverは、これまでに1億本以上の導入実績があります。

Sun Java System Calendar Serverは堅牢で豊富な機能を備えた、スケジュールリングと組織リソースを管理するソリューションです。Sun Java System Messaging ServerやJava System Instant Messagingなどの各種ネットワークアイデンティティ製品およびSun Java System Portal Serverと組み合わせることで、セキュアであらゆる機能を提供できる統合ソリューションを低いITCOで実現します。

質の高いユーザ環境

電子カレンダーを利用し、スケジュールやリソースを管理する機会はますます増えています。カレンダー・サービスに求められるのは、サービスを継続的に運用できる優れたユーザビリティを異なるメディアやデバイスを介して、容易なパーソナライゼーションとアクセシビリティを提供し、質の高いエンドユーザ環境を実現することです。

Sun Java System Calendar Serverは従業員やパートナー、学生など、あらゆる組織に属する各個人の間で、スケジュールとリソースの円滑な調整 / 連携 / 管理を実現するために設計されています。企業の導入においては、従業員の満足度および生産性が向上し、サービス・プロバイダーの場合には顧客満足度および顧客維持の向上に効果的です。

グループ・スケジュールリング

Sun Java System Calendar Serverを利用することで、企画したイベントへの参加を募ることが可能で、参加 / 不参加の管理が容易に行えます。グループ・スケジュールリングには以下のような機能があります。

- イベントへの参加を募る
- イベントへの参加 / 不参加の伝達
- 企画したイベントに対する公開 / 非公開の指定
- オーガナイザーを参加者として含むことが可能
- ミーティングへの招待を転送可能
- イベントに対して参加予定者の出欠予定の状態を閲覧可能
- グループ・スケジュールの閲覧(参加者のスケジュール

ルと並行して表示)

- Microsoft OutlookとSun Java System Calendar Server両方のユーザの状態を同時に閲覧可能

イベントへの招待を受けるために、参加予定者が同じカレンダー・サーバ上に存在する必要はありません。Sun Java System Calendar Serverは参加予定者が自らのサーバ上にないことを認識すると、スケジュールに関するメッセージをiMIPメッセージとしてEメールで送信します。

リソース・スケジュールリング

会議室やオーバーヘッド・プロジェクト、その他のリソースの利用予定などをSun Java System Calendar Serverで管理することができます。

空き時間の検索

空き時間の検索機能は、イベントやアポイントメントのスケジュールリングを行う場合、事前に複数のカレンダーを検索し、召喚するユーザの空き時間を確める機能です。この機能のユーザ・インタフェースは並列でグループのカレンダーを閲覧でき、容易にグループ内のスケジュールリングが行えます。

情報共有

イベントのタイトル・ボックスに埋め込まれたハイパーリンクの機能により、ユーザはイベントや業務に関連した情報を共有することが可能です。ハイパーリンクとしてカレンダーに記載された予定事項は、それら

ミーティングの詳細状況や参照資料として別のブラウザ・ウィンドウで開きます。

テキスト検索

ユーザは所有する全てのカレンダーに対して、イベントや業務の検索をかけることが可能で、3ヶ月前に行った歯医者への予約など、埋もれてしまった予定でも即座に見つけ出すことができます。

ユーザ単位で複数カレンダーの利用

Sun Java System Calendar Serverは、ミーティングなど(仕事用)、休暇や通院の予約など(プライベート用)、商品開発など(チーム用)と目的別にカレンダーを用意できるため、効率的な個人スケジュール管理が可能です。

エンドユーザのプライバシー・コントロール

Sun Java System Calendar Serverは、カレンダー・レベルそしてイベント・レベルでのアクセス・ポリシーの設定が可能です。細かなプライバシー・コントロールにより、エンドユーザごとに以下を含む異なったレベルによりアクセスをコントロールできます。

- 空き時間の確認のみ
- イベントのスケジュールリング
- イベントと業務の閲覧
- イベントと業務の削除

カレンダーの所有者は個人のイベントに対して、一般に公開 / 非公開、時間 / 日付のみ記載、オプションでスケジュール有 / 無の表示を行うことができます。

柔軟なアクセス

大きな組織や数多くのグループが存在する場合には、そこに参加しているユーザが、それぞれ異なるアクセス形態を要求してきます。休憩室のインターネット専用端末から、ちょっとカレンダーを見たいだけの人も、管理端末から包括的に個人情報操作する必要もある人もいます。もちろん、モバイル端末や遠隔地からのアクセスを必要としている人がいることも無視できません。Sun Java System Calendar ServerはWebベースのインタフェースや、各々に

対応したSun Java System Connectorを介することでMicrosoftのOutlook、XimianのEvolutionとの相互運用性も提供しています。

MAPIベースのプラグインであるMicrosoft Outlook向けSun Java System Connectorは数多くのMicrosoft Outlookの機能を提供します。

- メール / カレンダー / アドレス帳サービスへのアクセス
- Eメールによるミーティング・リクエスト送受信 / 返信
- 予定有無参照 / 業務 / コンタクト / アタッチメント
- カレンダーの共有と権限委譲
- グループ共有
- オフライン・アクセス
- 公開 / 共有フォルダ (メールおよびカレンダー)

Sun Java System Portal Serverとの統合で、ユーザはあらかじめ用意されているポートレット経由でポータル環境からカレンダーへのアクセスが可能になります。Sun Java System Portal Serverに統合されたJava System Messaging ServerとSun Java System Instant Messagingが、あらゆるアクセス・ポイントからのコミュニケーション&コラボレーション・サービスを実現します。Sun Java System Synchronizationツールやその他のモバイル・ソリューションを利用することで、モバイル環境やワイヤレス環境からポータル・サイトへのアクセスを実現します。

Sun Java System Synchronizationツールを利用することにより、Sun Java System Calendar Serverとデスクトップ、もしくはWAPやPDAといったモバイル端末上の個人情報管理ツールとの情報の同期が行えます。サポートしているPDAには、Pocket PCおよびPalm OSデバイスを含みます。

オープンで拡張性のあるプラットフォーム

一般的にコミュニケーション&コラボレーションサービスは、日々、増加していくエンドユーザからの要望やビジネス・ニーズにあわせ、拡張や変更など、手を加えていく必然性があります。さらにそれらを行うには、現在提供しているサービスに支障をきたすことなく、求められている新しいサービスを迅速に実装する必要があります。

Sun Java System Calendar Serverは、IT投資を保護するため、サービス拡張とアプリケーション・カスタマイズのためのAPI(Application Programming Interfaces)と、組織の内外を問わずに実装可能であらゆるビジネス・モデルをサポートするための標準規格に則ったソリューションを提供することで、この要求に応えています。Sun Java System Calendar Serverのモジュール単位の構成で、規格に準拠したオープンなアーキテクチャが、お客様の環境に合わせたカスタマイズやパーソナライズされた時間帯の設定、そして組織のリソース管理ソリューションを実現します。

オープン・スタンダードのサポート

インターネット標準におけるカレンダー仕様の批准は、カレンダーリングとスケジュールリングを、インターネット活用の大きな目的の1つに推し進める要因となりました。Sunはそれら新しい標準の策定に貢献し、Sun Java System Calendar Serverはその新しい標準を効果的にご利用いただけるように設計されています。この標準への準拠が、Sun Java System Calendar Serverと他のカレンダー製品との相互運用性を可能にしています。サポートしている規格には、iCalendar(RFC 2445)、iTIP(RFC 2446)そしてiMIP(RFC 2447)があります。

Sun Java System Calendar ServerはXML (eXtensible Markup Language)をサポートしており、これによりユーザはXMLとiCalendarフォーマットによるカレンダー情報のインポートとエクスポート、さらにMicrosoft Outlookフォーマット・インポートが可能になります。

イベントの告知

Sun Java System Calendar Serverには、イベントのリマインダとカレンダー・データベースの変更をEメール / ポケットベル / その他のワイヤレス機器に配信する告知サービス機能が組み込まれています。この告知機能を拡張するための開発者用API(CおよびJava Message Service API)が、XML、SMS(Short Message Service)、インスタント・メッセージングなど、その他さまざまな送信メカニズムへの拡張を可

能にします。XMLのサポートにより、企業のお客様がSun Java System Calendar Serverを容易に、そしてコストを抑えながら他のアプリ・ケーションへ統合できます。

ユーザ・インタフェースのカスタマイズ

Sun Java System Calendar Serverが採用している柔軟性に富んだXMLとXSL(eXtensible Stylesheet Language)テンプレートは、ブランドやロゴタイプ、バナーや広告、そしてオリジナリティにあふれるルック・アンド・フィールの統合を可能にします。再利用可能なテンプレートは、一度行ったカスタマイズへの投資を次期アップグレードがリリースされた場合も、有効に活用することことが可能です。

サービスの拡張

CSAPI(Calendar Server API)を利用して、Sun Java System Calendar Serverの機能に手を加えることが可能です。例えば、認証方法やアクセス・コントロールのカスタマイズや、カレンダー情報をさまざまなクライアントがサポートしているデータ形式へ変換することができます。ワイヤレス・カレンダー・サービス用の拡張には、プラットフォームに追加アプリケーションとして機能するSun Java System Portal Server Mobile Accessがあり、カレンダーとメッセージング機能を連携させることが可能なロケーション・サービスなどとして統合することが可能です。

提供イベント情報のカスタマイズ

Sun Java System Calendar Serverは、各々のユーザの興味に合わせて、特定のコンテンツをリアルタイムで配信するイベント情報提供機能を備えています。たとえば、天気予報 / 株式情報 / 新刊情報などバラエティに富んだコンテンツをユーザに配信可能です。

Sun Java System Calendar Server

QoS(Quality of Service)

企業の内部の利用者そしてサービス・プロバイダーの利用者どちらであっても、セキュアで、常に接続環境が保たれサービスを利用できることをエンドユーザは求めています。システム・ダウンは決して許されません。ITの一視点から考えると、システムのダウン・タイムはそれだけでコストアップを意味します。Sun Java System Calendar Serverサーバは、エンドユーザが求めている、サービス品質を提供することのできる堅牢なカレンダー・ソリューションです。

水平、そして垂直方向への優れた拡張性

大きなコミュニティに対してサービスを提供する必要のある複数台の小規模サーバは、サービスの質を維持しコストを削減できるなど、より容易なサーバ管理が可能です。Java System Calendar Serverは拡張可能なアーキテクチャを基に構築されているため、多くのリアルタイム・カレンダー・イベントを同時に扱うことができ、ハードウェアへの投資効率を最大限に引き出せます。

高可用性

ネットワーク維持機能とデータ可用性を通して、Sun ClusterプラットフォームがSolaris™オペレーティングシステム上で日々使われるアプリケーションに対し高可用性(HA)と高拡張性を提供します。Sun Cluster 3.1を併用することによりSun Java System Calendar Serverは、持続的な可用性の提供と、クラスターの集中管理のサポートが可能になります。

ネットワーク認証の統合

Sun Java System Calendar Serverは、Sunの誇る最先端のネットワークアイデンティティ・プラットフォームであるSun Java System Directory Server (旧 Sun ONE Directory Server)とSun Java System Identity Serverと密接に統合可能です。LDAPを基にしたSun Java System Directory Serverが、ユーザとアカウント情報の集中的な管理と蓄積を実現し、容易な運用管理を可能にします。Sun Java System Identity Serverとの統合が、全てのSun Java Enterprise System製品におけるシングル・サインオンと共通ユーザ属性情報の提供を実現します。

今、すべてをシンプルに変える

Sunは、オープンで互換性のあるお求めやすいソフトウェア・システムを各種取り揃え、IT基盤の効率的な稼働を支援しています。各ソフトウェア製品はUNIX®とJavaをベースにシステムとして統合され、高いセキュリティと可用性、下位互換性を備えています。Sunのソフトウェア・ポートフォリオには、Solaris™(SPARC®版およびx86版)とLinux、ダイナミックなユーティリティ・コンピューティングに最適なN1™プラットフォーム、そしてSun Java systemが用意されています。

Sun Java Systemは、企業が必要とするソフトウェアの購入 / 開発 / 管理をこれまでになくシンプルにする画期的なアプローチで、豊富な実績と広範なソフトウェア・ポートフォリオを持つSun以外には真似の

できないユニークな戦略です。Sun Java Systemを利用すれば、ネットワーク・サービスや基幹ビジネス・アプリケーションを迅速に立ち上げ、コストも従来以上に軽減することが可能です。余裕をもってイノベーションや競争、売上増強に専念できます。

Sun Microsystems, Inc. について

1982年の創業以来、Sunはおお客様の声にお応えし、お客様のビジネスの成長支援、コスト削減への貢献、企業競争力の増進に努めてまいりました。Sunは業界でもっとも堅牢なハードウェア / ソフトウェア / サービス、そしてコンピュータ・ネットワークの源流となるテクノロジーを提供しています。

オペレーティングシステムとプラットフォーム

- Solaris 9およびSolaris 8(SPARC版)の各リリースと推奨されるパッチ群
- Solaris 9(x86版)の各リリース

言語

- 英語、フランス語、ドイツ語、日本語、韓国語、スペイン語、簡体字中国語、繁体字中国語

詳細

Sun Java System Calendar Serverの詳細については、sun.co.jp/software/をご覧ください。

サン・マイクロシステムズ株式会社

本社	〒158-8633 東京都世田谷区用賀4-10-1	SBSタワー	電話(03)5717 5000(代)
山王オフィス	〒100-6160 東京都千代田区永田町2-11-1	山王パークタワー12F	電話(03)4232 2400(代)
中部支社	〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-14-4	エグゼ丸の内507	電話(052)203 1233(代)
大阪支社	〒541-0052 大阪市中央区安土町1-8-15	野村不動産大阪ビル5F	電話(06)6265 5700(代)
九州支社	〒814-0001 福岡市早良区百道浜2-1-22	福岡SRPセンタービル3F 308	電話(092)834 0101(代)
つくば営業所	〒305-0032 茨城県つくば市竹園1-6-1	つくば三井ビルディング11F	電話(0298)51 2210(代)
豊田営業所	〒471-0833 愛知県豊田市山之手5-73-1	山之手ビル7F	電話(0565)25 5701(代)
ホームページ	http://sun.co.jp/		

© 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun, Sun Microsystems, サン、Sun Microsystems, Java, Java Coffee Cupのロゴマーク、Solaris, N1は、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または登録商標です。すべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標または登録商標です。SPARC商標がつけられた製品は、米国Sun Microsystems, Inc.が開発したアーキテクチャに基づいたものです。UNIXは、X/Open Company Ltd.が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。本文中に記載の各社の社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。資料の内容は、お断りなしに変更することもありますのでご了承ください。

